



「目でみる脳卒中リハビリテーション」

上 田 敏 著

本書は以前東大出版会から刊行された「目でみるリハビリテーション医学」の姉妹篇である。前著はリハビリテーション医学そのものの理解を促す意図で書かれたものである。本書では前著におけるリハビリテーション医学の基本的な考え方をベースに、今日リハビリテーションの対象として最もニーズの高い脳卒中に焦点を絞り、多彩なカラーによるイラスト、図解、写真と明晰な解説により、総合的視点に立って述べてある。

本書の内容は濃厚であるが、本書のはじめに著者自身によるオリエンテーションが加えてあるため理解しやすい。セクションは7つに分けてあり、1. 脳卒中リハビリテーションの考え方、2. 脳卒中片麻痺のみかた、3. 片麻痺の診断と評価、4. 急性期リハビリテーション、5. 基本的リハビリテーション、6. より進んだリハビリテーション、7. 社会復帰となっている。

本書の対象は一般医療システムにおいて脳卒中リハビリテーションに関与している医師、看護婦を中心として

いる。その点、単に考え方に留まらず、特に急性期、基本的リハビリテーションとより進んだリハビリテーションの部では実際の技術と理論が十分に紹介されており実践的に活用されうる。

全体的に感じられることは、リハビリテーションの考え方と方法論が一つの流れとしてうまく調和していること、著者が長年築いた学識と学研のセンスにより本題における問題点を明示しながら著者の意図するところがスマートにまとめてあることである。なかでも、諸概念の図解は卓越している。

本書は PT, OT, 看護学生にもすすめられるし、また長年現場にいる医師、セラピストにとってもこの方面における考え方を総体的にみることの大切さを再認識させてくれる。

(A 4, 頁66, 東京大学出版会, ¥3,200, 1981)

(金沢大学医療技術短期大学部 理学療法士

奈良 勲)

「運動の解析 (基礎と臨床応用)」

島 村 宗 夫 中 村 隆 一 編

ますます専門化、細分化してゆく今日の医療の世界において、自分の仕事の領域に関連のある文献を読み、あるいは新しい分野を手がけようとする場合に、難解な用語や現象に行き当ることはしばしば経験することである。ことにその内容が近年研究され、議論されているようなものについては、それを解説してくれるような教科書的な文献もなく、参考文献を捜すだけでも大変な労力を必要とすることが多い。

この本は、本邦における運動解析の最新の研究状況を、各分野の第一人者の方々が執筆されたもので、現時点でのある意味での集大成とも言えるものであろう。内容は5章から成り、最初の2章は基礎編として、運動を生理学的な立場から解説し、各種実験に伴うデータ処理の方法についての記述がなされている。後半の3章は各論として、運動を反射、随意運動、不随意運動とに分けて、各種の運動解析の方法論から解釈に到るまでが記載されている。前半の2章は、どちらかというと理論解析的な記述となるために、自動制御や統計の知識を必要と

するため苦手とする方もあろうが、後半の各論は、フィールドに直結した実験解析が、実験装置を始めとして、データサンプル、解析、および解釈などを、個々の実験例について具体的に詳細に記述しているため、読者の日々の経験を系統的に整理したり、新しい知見を臨床に応用しようとする場合には大いに参考となる。

現代は情報の時代といわれる。情報は多く集めるに越したことはないが、ある時点になると今度は情報をうまく整理しないと収拾がつかなくなる。ことに未だ確立されていない分野においてその感が強い。運動解析についてもさまざまな議論がなされているが、本書はひとつの整理の方向を示したものと見える。各論についてさらに深く知りたい場合には、巻末の豊富な参考文献が良い手引となろう。索引の充実が望まれるところである。

(B 5, 頁386, 9,800円, 医歯薬出版, 1980)

(兵庫県リハビリテーションセンター

義肢装具開発課 研究員 中川 昭夫)